

ケアプラザからのお知らせ

新! 「ふらっと! 麦田」

お試的に開催します!
フリースペースを使ってやっ
てみたいことなどがありまし
たら、ご提案ください!

4月から、地域の方が立ち寄って自由に過ごせる場として、
月に2回、ケアプラザの多目的ホールを開放してみます…!
バスが来るまでの間、家ではないどこかで過ごしたい時など、
お気軽にお越しただける場になることを目指します。



日時: 4月13日(水) 13時~閉館まで
28日(木) 9時~12時
場所: 麦田地域ケアプラザ 多目的ホール

各行事は新型コロナウイルスの状況に
より、中止や延期をすることがござい
ます。詳しくはお問い合わせください。



麦田くるくるマルシェ



日時: 4月27日(水) 10:00~13:00
場所: 麦田地域ケアプラザ 1階

地元の新鮮お野菜を中心に
販売しています。
時々パンやお菓子の販売も♪

第2木曜

ふれあいサロン

日時: 4月14日(木) 13:00~15:00
場所: 多目的ホール

集まった方たちで様々なプログラムを楽しみま
す。地域の民生委員さんやボランティアさんたち
と連携しています。

第3木曜

麦麦ハッピーくらぶ

日時: 4月21日(木) 13:00~14:30
場所: 多目的ホール

65歳以上の高齢の方が集まり、体操やおしゃべ
りをして交流するサロンです♪現在は感染症対
策をしながら実施しています。

第2・4 月曜

月曜喫茶室



日時: 4月11日(月)・25日(月)
場所: 多目的ホール

65歳以上の高齢の方が集まり、軽い運動や脳ト
シ、工作、ゲームなどでボランティアさんと交流
します♪現在は感染症対策をしながら実施して
います。

第1・4 水曜

子育てサロン



<読み聞かせ会(第1水曜)>
日時: 4月6日(水) 10:30~11:30
<子育てサロン(第4水曜)>
日時: 4月27日(水) 10:00~12:00
いずれも多目的ホールで開催。
未就学児の親子を対象にしたサロンです♪

横浜市麦田地域ケアプラザ

〒231-0849
横浜市中区麦田町 1-26-2
TEL:045(664)6023
FAX:045(664)6075
MAIL:mugita@yokohamashakyo.jp

JR→石川町駅下車徒歩 10分
バス→いずれも「麦田町バス停」下車
桜木町方面より
21・101・105・106 系統
本牧方面より
101・105・106 系統



おおむぎこむぎ

令和4年4月号(第109号)
横浜市麦田地域ケアプラザ
〒231-0849
横浜市中区麦田町 1-26-2
TEL:045(664)6023
FAX:045(664)6075
発行責任者: 所長 川崎 博子

中なかいいネ! ウィーク開催しました (2/14~28)

皆さんのお住いの地域には、それぞれ「こんなまちになったらいいな」「ここがいいと
ころ!」など、地区ごとの計画やデータがまとめられた「地区別計画」というものがあります。
中区には「中区地域福祉保健計画(中なかいいネ!)」という区域計画があり、さらに細かい
地域ごとに考えられた計画が、「地区別計画」です。

2月23日(水)、くるくるマルシェの開催に合わせて、皆さんにもっと「中なかいいネ!」
を知ってもらおうと、PR企画を行いました。



サッカーJ3、YSCCのピーターセン世穂選手の迫力ある
パネルが、PR企画として登場しました。

区域計画……区域の共通課題や地域では解決することが
困難な課題に対する取組をまとめたもの
地区別計画…地域が目指すまちの姿や地域の様々な課題
に対する取組を地域が主体となってまとめ
たもの



詳しくは
こちらから!

住民はもちろん、その地域にある企業や学校など、
地域を構成している人や団体なども一緒に意見を出し合っ
て、自分たちのまちについて考えることが大切で、「中なか
いいネ!」はそのためのツールにもなります。ぜひ、ご自身
の地域について色々な人と考えたいなあ。と思う方やご意見
のある方は、調べてみてくださいね。区役所や、お近くの地
域ケアプラザに資料があるのでお問い合わせください!



続きは
2・3面で!



学生×地域活動 プロジェクト始動!

横浜市青少年育成センター「よこはまユース」で活動する学生が、麦田地域ケアプラザの地域の取組
に参加し、活躍してくださっています。麦田元気朝市祭やくるくるマルシェ、子どもの居場所づくりを
行う団体の活動などに参加し、幅広く活動中です。自分たちで企画を考え、実践しています。そんな学
生さんたちが、地域を担う方々に活動への思いやこれからの地域について、お話を伺いました!

新しい年度になりました。感染症や世界情勢など、心
配なことは尽きませんが、私たちにできることでどなた
かのお役に立てるよう、気持ちを引き締めて、引き続き
職員全員で励んでまいります。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします!

麦田地域ケアプラザ 職員一同



もくじ

- 【一面】中なかいいネ!について
- 【二面・三面】麦田朝市祭取材記事
- 【四面】ケアプラザからのお知らせ

元気に開催中!

～麦田元気朝市祭～

学生×地域活動 深掘りインタビュー



昨年10月から毎月第2日曜日、麦田町で元気朝市祭が開催されています。約60年続く麦田町の商店会である「麦田町発展会」が主催で、元気いっばいに地域を盛り上げています。そんな朝市について、大学生が発展会の大谷会長と、朝市を率いているエヌケン・ホームの望月さんにお話を伺いました!

Q&A

文:山村 陽満里



なぜ朝市を開催しようと思ったのですか?

大谷会長:10年前に朝市を行ったことがあります、1回きりで終わってしまいました。望月さんにその話をしたところ、ぜひやろうとなり、昨年朝市が実現しました。

10年前の朝市と違うところは?

大谷会長:前は神奈川県に相談して、一緒に運営をしましたが、今回は麦田町発展会や地域が主体となって行っています。ありがたいことに、地域の皆さんのご協力もあり、好評です。

朝市の今後の目標を教えてください。

望月さん:商店街の出店店舗を増やしていきたいのと、発展会をより多くの方に知ってもらいたいです。長く続けることで、地域の活性につながると思います。

3月まで月1回開催された朝市も、今後はパワーアップして、4月からは奇数月に開催される予定です。会長の思いと望月さんの熱意によって実現した朝市一。今後も長く地域に愛されるよう進化を続けていくようです。



麦田地域ケアプラザの多目的ホールで、オンラインも含めた取材を行いました!



大人も子どもも一緒に楽しめる「昔あそび」は大好評。塗り絵や折り紙などは小さなお子さまに人気でした。夢中で色を塗っている間に、親御さんたちはお買い物♪

～温かい交流の場に～

朝市では、コンビニやスーパーと違い、来た方々、運営されている方々で談笑する姿をよく見ます。最近少なくなってしまった地域の繋がりを大切にしたいという思いが、麦田町には溢れています。朝市が始まった理由として、商店街が時代とともに変わったという背景があります。昔は物を売り、会話を楽しむ姿がありましたが、現在は効率化が進み、物の売買をいかにスムーズに行うかが重視されがちです。しかし「昔のように店員さんと話すこと、それを好む人もいます」と大谷会長は話します。そこにある温かみを求める人もいるのだと。また、麦田町を含む周辺地域は下町情緒があり、お互いに挨拶を交わし合える人が多いことが強みだと望月さんは話します。

今回の取材で、人の温かさや結束力で、麦田町はこれからも愛される地域であり続けるのだろうなと感じました。

文:平川 竣也



私たちが取材しました!

～地域への思い～

大谷会長と望月さんは共通して「地域の助け合いを大切にしたい」と話されていました。取材の中で、全国唯一の「麦田町」、当たり前には挨拶ができる下町っぽさのある「麦田町」などのフレーズから、地域への「誇り」を感じました。その中で「商店街の役割は地域貢献に変化してきている」という大谷会長の言葉からも、自分たちのまちを支えていきたいという熱意を感じました。

「人と人の繋がりを大切にしていきたい」という願望が、大谷会長・望月さん・発展会の皆さん・地域・ボランティアなど全ての「出会い」によって形づけられ、朝市は開催されている。私は取材の中でそう思いました。

今後に関しては、望月さんは「もっと地域を知って、試行錯誤を繰り返して、地域を盛り上げたい」と仰っていました。麦田町の発展を見ることができた気がして、楽しみです。

文:小林 秋穂



～商店街から広がる地域の輪～

麦田町の商店街は、人のつながりをとても大事にされています。麦田町発展会の大谷会長は、商店街の強みはお客様と対面でお話ができることだと仰っていました。お話を通して、商品ではなく「自分」を売っているような気持ちでお客様と向き合い、物の売買だけでなく会話を楽しみながら、人間関係の輪を広げる商店街の姿が想像できました。人とのコミュニケーションを大切にする商店街は、人と商品だけでなく、人と人がつながる場です。それに加えて、商店街は現在「地域の見守り」という役割も担っています。麦田地域ケアプラザでは認知症の方への対応に関する講習、持ち運びできる救急セット「FA」は、地域で怪我をした際の助け合いを広げる活動をしています。さらに、朝市など地域活動を積極的に行っており、地域の方々が安心して暮らせるまちづくりに貢献しています。人のつながりを大事にする商店街の姿勢は、麦田町やその住民の方々を大切に思う気持ちで溢れていました。

文:今岡 康行



横浜市青少年育成センター(よこはまユース)が、コロナ禍で活動が減っている大学生に、取材活動などを通して地域団体とつなげる取組を2020年から行っています。今回はその一環として、麦田地域ケアプラザの担当地域(第3地区やその周辺)に来てくださっています。地域活動に参加したり、企画したり、取材活動を展開しています。

若者ならではのアイデアが光り、地域の方に喜んでいただける企画は何だろう?と考える姿から、ケアプラザも学ばせていただいています。これをきっかけに、今後も一緒に地域を盛り上げていくことを期待します…!